

2011年ICAプロジェクトの概要

2011年はICAより総計70万ドルのファンドを受けて、前年に引き続き6つのプロジェクトを遂行します。各プロジェクトの概要は次の通りです。

◆銅と健康プロジェクト

昨年よりICAではAntimicrobial Copper Cu+のロゴを付けた抗菌銅製品の商品化に傾注しており、日本でもドアハンドル等でのCu+ロゴ入りの商品化を進めます。

また、現在幾つかの新病院建設案件に参画しており、できるだけ多くの銅製品が導入されるようワークする予定です。

◆高効率モータ普及プロジェクト

昨年、日本の某鋳物メーカーにCMRのダイキャスト技術移転が終了しており、その後幾つかの試作案件が進行しています。

一番の懸案であったモータ単体での効率規制については、今年1月に経済産業省から規制導入の方針が公表されており、今後ますます高効率モータへの関心が高まることが予想され、CMRが試作から商品化に繋がるようサポートする予定です。

◆導体サイズ適正化プロジェクト

昨年11月のIEC/TC20の総会において、日本から提案された環境に配慮した「導体サイズ適正化」を議論するプロジェクトチームの設置が承認され、国際標準化に向けて始動することになりました。今年

昨年に引き続き大手電線会社での実証試験を継続するとともに、国内および国際規格化に向けて(株)日本電線工業会をサポートします。

◆建築用制振ダンパープロジェクト

このプロジェクトは東北大学と京都大学からのプロポーザルに基づいて昨年よりスタートしており、形状記憶特性を有する銅合金を用いて一般住宅や低層ビルで使用される制振部材を製品化するものです。昨今、世界各地で地震による大きな被害が発生し、海外からも関心が寄せられており、量産工程の早期確立を進めます。

◆OEMプロジェクト

これは銅の使用量の多い自動車、家電、重電、通信業界の製造メーカーにおける銅に関する技術的なニーズを把握し、ICAの技術ポテンシャルを活用して新規用途開拓等の共同開発案件を見つけるプロジェクトです。今年には上記業界の主要メーカーとの個別ミーティングを実施して開発テーマを模索します。

◆広報プロジェクト

広報活動に関しては、機関紙「銅誌」の発行といった従来からの日本銅センターの活動が主体となっていますが、昨年は外部エージェントと契約を結び、本誌でも紹介している保育園を舞台とした「子どもを守る安全・安心プロジェクト」を成功させました。今年も銅の優れた特性が数多くメディアに取り上げられるよう努めます。

NEWS

銅センターニュース

NEWS 1

銅の優れた殺菌力にTVが熱い視線

—TBSテレビ「みのもんたの朝ズバッ！」—

昨年末に放映されたTBSの朝の人気番組「みのもんたの朝ズバッ！」で“銅のすぐれた殺菌力”がクローズアップされた。

今までも多くのマスメディアで銅の殺菌力がとり上げられてきたが、新型インフルエンザやノロウイルスが流行している中での放映だっただけにタイムリーな内容であった。



洗濯機での検査	従来製	銅製抗菌製
一般細菌	875	18
フドク球菌	130	0
バチルス菌	58	5

NEWS 2

殺菌効果、導電性など銅の多様な特性をPR

—エコプロダクツ2010に出展—

当センターでは、昨年12月9日～13日、東京ビックサイトで開催された「エコプロダクツ2010」に出展し、銅が持つさまざまな特性をアピールした。なかでも銅のすぐれた加工性を訴求するために行われたパフォーマンスでは、京都府板金工業組合の技能士を招いての銅の折り鶴を実演。子どもたちをはじめ多くの来場者の注目を集めた。



TOPICS 1

「銅の千羽鶴」を沖縄平和記念資料館へ献納 —京都府板金工業組合—

このほど、京都府板金工業組合の関係者13名が、糸満市の県平和記念資料館を訪れ、銅板製の千羽鶴を献納した。同組合に加盟する約220事業所の関係者が「破られない平和」への願いを込め昨年7月～11月にかけて製作。この事業には日本銅センターも協賛した。2002年の広島市平和記念公園、03年の長崎原爆資料館に続き、沖縄への寄贈となった。銅の千羽鶴の受け入れは同館も初めてで、約1か月間展示された。後に、宜野湾市(庁舎)に保存展示された。



千羽鶴を寄贈する、京都府板金工業組合田原茂理事(右)、大川芳子館長(中)、日高俊信(社)日本銅センター専務理事(左)

TOPICS 2

昭和初期・看板建築のレトロな商店街がお目見え —亀戸香取勝運商店街—

このほど、「亀戸大根」でもその名を知られる東京の下町・亀戸に商店街のイメージアップと活気ある街づくりを目指し、昭和初期の看板建築を蘇らせた町並みが誕生した。

レトロに再生したのは「亀戸香取勝運商店街」で、東京都の助成による観光レトロ商店街モデル事業の一環として実施され

たもの。

商店街の総意として「看板建築」に統一しており、同商店街事務局長・長束光芳氏は「この商店街のコミュニティスペース(勝運ひろば)を緑青銅板で外装全体に敷き、この施設を中心に話題性のある商店街づくりを進めていきたい」と熱い思いで語る。

(JR総武線・亀戸駅北口より徒歩5分)



完成予想図



写真/川島 保彦 (かわしま やすひこ)

編集後記

・本誌初の企画である「復刻版シリーズ」がスタートしました。ぜひ、ご一読を。
・銅の歴史物語——
東大寺大仏の軌跡(既発行誌プラス)の完結編です。
リレー随想と併せ、歴史って本当に興味が尽きないですね。
・ユーザー訪問——

東京スカイツリーの先端部分がデジタル放送用アンテナを装備するゲイン塔。実は外内と大変な量の銅板・線が敷設され電波を送り出す。上空600メートルの未知の高さで練り広げられた一大プロジェクトX。携わった多くの関係者に拍手を送りたい。

編集デスク 斉藤 久嘉((社)日本銅センター)

情報発信委員会

〈委員長〉堀田修司((株)神戸製鋼所)
〈委員〉鉦山/塚本弘之(三菱マテリアル(株))、鏡原俊一(バンバンフィック・カップ(株))、永田禎彦(日本鋳業協会)伸銅/轟正博(古河電気工業(株))谷敬三((一般社)日本伸銅協会)電線/湯谷彰((株)フジクラ)、後藤信之((社)日本電線工業会)((社)日本銅センター)和田正彦、幸洋二